



研究テーマ： 保育ソーシャルワークの役割と実施体制

研究者： 鍋田 耕作

NABETA Kosaku

(経営経済学部経営経済学科 准教授)

【研究・開発の目的】

保育所保育指針において、保育士が子どもの保護者に対する保育に関する指導を行うべきことが明記され、保育所に入所している子どもの保護者に対する支援が求められている。しかしながら、保育所における子育て支援研究は確立していない現状にあり、保育所に求められる子育て支援の在り方について、模索していくことを目的としている。

【研究・開発のきっかけ】

この研究は、福祉に従事する者の業務量について、適正であるかどうかの研究は少なく、保育士への役割を増やしてだけでなく、役割を明確にし、多職種連携のもとに成り立つ配置や組織作りが必要であると考えたことから始まる。

【研究・技術の概要】

保育所における保育士の役割について、保護者への支援の在り方及び多職種（社会福祉士等）との連携についての意識調査を行い、役割分担を進めるための配置や組織作りに関する調査を実施することにより現状の把握を進めていき、配置や組織体制の可能性について考察していきたい。このような実態調査を通して、新たな職種の配置の可能性だけでなく、現在における保育士の設置基準等の見直しについて追究していくことにより、福祉に従事する者の業務量の適正化につなげることができるものと考えている。

【研究・技術の特色】

今回の研究においては、保育所における子育て支援の在り方について追究していくものであるが、保育現場の状況に鑑み、業務量の適正化および配置のバランスなど、組織の在り方にもつながるものである。この研究は、保育所だけでなく他の福祉組織においても当てはまることであると考えている。

【今後の展開】

本研究の目的である「保育所における子育て支援」研究を進めるため、現状として実施されている子育て支援の把握に努め、保育所および保育士に求められる役割を明確にし、地域における効果的な支援の内容について明らかにしていきたい。また、支援内容の実施において、どのような配置や組織体制が必要であり、可能であるのかについて意識調査及び実態調査により明らかにしていきたいと考えている。

【今後の課題】

本研究の目的を達成するためには、多くの子育て支援のケースとサンプルが必要となる。そのため、研究を進めていくためには、協力支援体制の構築が重要となる。また、その実施されている支援の効果測定も必要となる。

【地域・企業へのメッセージ】

本研究の目標は、地域における子育て支援の在り方およびその実施体制の在り方について追究するものであり、「福祉」の実施体制を考察していくものになります。限りある社会資源や経営資源をどのように活用してくべきかについて考えていく必要があると思っています。そのためには、「福祉」を実行されている現場の状況をしっかりと把握していくことが重要になります。必要とされる業務（量）が変わらない中で、役割が増えるということは、福祉の従事者に負担を強いることになります。このような状況を改善していくためにも、地域の方のご協力をお願いしたいと思っています。